

第 6 回専門部会が出された意見

1 「Ⅰ 改定の趣旨」について

(3 段落目の 3 行目～「今後も増加が見込まれる外国人市民は、地域社会・経済や地域コミュニティの活性化の担い手としての活躍がより一層期待されることから、外国人市民にとっても本市が生活の拠点といえる諸環境を整えていくことがこれまで以上に重要になっています。」について)

- ① 勝手に我々が期待し、だから諸環境を整えていく必要があるのだというのは少し乱暴に読めた。期待しているかしていないかではなく、そういう方々がある意味普通に、自然に暮らせるようにということだと思う。期待していないから別に環境を整えなくていいという話ではない。「より一層期待されることから」と繋げてしまうと違和感があるので、期待するなら「期待しています。」と書けばよい。「期待されているから重要なのだ」とするから違和感が際立つ。
- ② 3 段落目は人口減少の話から入っている中で、「広島市が世界に誇れるまちを目指しているから、外国人は重要だ、だから」となると、期待感を負わせ過ぎてしまっているというか、人口減少まで背負わせてしまっているということになる。
- ③ 上の 2 段落の文章が、「構成比も大きく変化しています。」で終わっている。ここで、「だから対策が必要である」ということではないが、下で「期待されます」と対策に繋がっているので、今の「期待されます」でもよいかもしい。
- ④ 「諸環境を整える」ことは、今現在いる人たちのためにも必要であるし、期待されるから必要という問題でもない。
- ⑤ 読み手が誰かによって、随分ニュアンスは変わるかもしれない。外国人市民にとっては何のことやらかもしれないが、市民、もっと言うと行政職員には、「職場で多文化共生や外国人のことをやらなければ」という義務感、責務感が出てくるのかもしれないと思った。
- ⑥ 居住者が増えていくのであれば住環境も整えることが必要だというように書いて、人口が減っているのだから彼らも活躍が期待されていますとしてはどうか。
- ⑦ 3 段落目の 5 行目「拠点といえる諸環境」という表現が何かおかしい。「外国人市民にとっても本市が生活の拠点といえるように」、「拠点といえるために」、諸環境を整える必要があるということではないか。

2 「Ⅱ 本市の現状」について

- ⑧ 資料 2 の 4 ページの図表 3 ①～と並んでいると見づらいと思った。マークと項目を合わせるなどもう少し見やすくした方がよい。
- ⑨ 取組状況の一覧表で、取組内容のそれぞれの頭に拡張と新規の文字に丸枠をつけているが、丸枠でなく例えば太字のカギ括弧の方が見やすいのではないか。
- ⑩ 「本市の多文化共生施策の取組状況」というのが、全体の文章構成から見ると、何か唐突感がある。ここにこれを入れておく必要があるのかどうか。趣旨があり、目標があり、そのデータと意識調査があって、そして課題という構成であればとても流れがよいと思うので、取組状況は最後に別添でつけるというような形にしてはどうか。

- ⑪ 現在取組状況を入れているところに、「現状を我々はこう見ている」ということをわかりやすく書いてはどうか。もしできるのであれば、今後の予想みたいなものを、仮説でもよいのだが入れてはどうか。要するに、「だからこういうことをやるのだ」ということがわかるようにする。調査の結果、どういうメッセージを出すのかということをしておかないといけないのではないか。全体の流れという意味では、市として「我々はこう理解するから、こういう施策をとるんです」とした方がよい気がした。
- ⑫ 「特定技能」が増えているというのはポイントだと思う。ここで書かれているのは、在留資格が多様化しているというのがメッセージになっているが、そうではないのではないか。要するに昔に比べ、いわゆる就労者の比率が増えてきている、というのは広島市における特徴なのではないかと読める。特定技能が増えているというのが一つあり、特別永住者は徐々に減っていくのはしょうがない中で、要するに上位三つの在留資格が減っているから多様化しているというのは少し乱暴な整理かと思っている。これをいわゆる働くために来ている人が増えているというふうにしていくと、後ろの方に出てくる就労者支援に繋がってくるかと思う。
- ⑬ 在留資格の特定技能の言及はない。実際、特定技能は、平成26年にはまだなかった。しかしとても急増しており、そうすると将来的な家族帯同に繋がるかもしれないが、そこまで書くかどうかだ。また、その就労者の増大により適正な就労環境の確保が必要になってくるということはあると思う。他方で、この1番多い永住者というのが増えている。永住者も増えてきているということも考える必要があるのではないかなって来ると、まとめが難しいが、そうした色々なニーズを持つ人たちが増加しているというところは強調すると後ろの施策に繋がるかもしれない。
- ⑭ 取組状況の中の「日本語指導協力者の学校への訪問」と「教育相談員の派遣」について、「訪問」と「派遣」と違っているが、これは用語として区別されているのか。
- ⑮ 取組状況の中の広報紙の対応言語について、ここだけ中国語をあえて簡体字と繁体字に分けて記載しているが、「中国語」とだけ記載すればよいのではないか。

3 「Ⅲ 課題の整理」について

【1 コミュニケーション支援の充実】

- ⑯ 相談窓口について、15ページの「施策体系」の方で機能強化に触れているが、この課題の方でも少し機能強化を入れられないのか。

【2 外国人市民が安心して生活し活躍できる環境づくり】

- ⑰ 「(1) 外国人市民の生活状況に応じた支援」の3行目、「国籍にかかわらず市民として、外国人市民の生活のための諸環境を整えていくことが重要になっていることから」の「国籍にかかわらず市民として」がどこにかかるのかがわかりにくい。「国籍にかかわらず市民として暮らす」といったことかと思う。
- ⑱ (1)に「国や県との役割分担を踏まえつつ」と書いてあるが、国や県の役割とは何かということが明確になって定義がないのであれば、これはあえて書く必要はないのではないか。

- ⑲ 「(2) 外国人市民の活躍推進」の1点目、「本市で学んだ留学生の多くが大都市圏に転出する傾向があると言われていて」の「言われています」というのはとても曖昧な表現なので、データがあるのであれば「傾向があります」でよいのではないかと。
- ⑳ 「3 交流・相互理解の促進」のところの「接触頻度(交流の機会)」接触頻度は何か変な日本語なので、「交流の機会」だけでよい。

4 「施策体系」について

【目標1 基本施策1/施策1 行政・生活情報の多言語化と外国人相談窓口の運営】

- ㉑ 相談窓口がこの「基本施策1 コミュニケーション支援」に入っていることに違和感がある。現状の内容だと、「基本施策2 生活支援体制の充実」の方がより適している。
- ㉒ 「外国人相談窓口の設置・運営」の「設置」を削除し、「現行の相談窓口の運営」や「既存の相談窓口の運営」としてはどうか。
- ㉓ 「相談背景や相談者のニーズを的確に把握し」の文言の前に、「より専門的な視点から」と追記することができないか。どこまでできるかはわからないと思うが、多文化ソーシャルワーカーのイメージだ。
- ㉔ 行政の仕組みに乗らない人がいる場合はNPO法人や企業にも繋げられるのではないかと。相談者に支援が確実に繋がるよう誰と誰を繋ぐのか広めに記載してもよいのではないかと。

【目標1 基本施策2/ 施策3 教育機会の確保と子ども・子育て支援】

- ㉕ 「外国にルーツを持つこどもの社会生活への適応や小学校教育への円滑な接続を図るため」について、小学校教育では唐突な感じがするので「未就学児」と説明をつけてはどうか。
- ㉖ 「学校教育への円滑な接続」としておけば、例えば高校に入る前の段階で来た子どもなども学校教育への円滑な接続に乗ってくるので、未就学児に絞らず、「小学校教育」を「学校教育」に変えて対象範囲を広くしてはどうか。
- ㉗ 小学校では指導者の関係性も含めて手厚く日本語指導を受けていた子どもが、ニーズがあるにもかかわらず中学校に上がるとその配慮がない。教育全般で、本人の自己実現のためによりよい選択肢が選べる、それを支援していく体制があるのだという感じで書ければいいと思う。
- ㉘ 今ある制度は「構築します」と書き、文章を加えて、「さらに中学校、高校への展開を検討します」「含みます」などとすれば、現状からは後退してないことになりよいのではないかと。
- ㉙ 子ども対象のプレスクールや保護者対象の入学前の説明会を実施している自治体が増えてきており、広島市がやっていないというのがすごく遅れている。それをやってもらわないといけないので、「中学校、高校も含めた学校教育として構築します」と書いて欲しい。
- ㉚ 学校に配置されているコーディネーターの週12時間の授業時間の縛りをなくしてほしい。
- ㉛ 「就学状況を把握する」とあるが、就学状況の他に背景も把握したほうがよい。背景については、文科省が作っている言語力や家庭の言語などの項目について様式を使って聞き取りするように示されている(「特別の教育課程」日本語指導に関する指導計画)が、十分に活用していない自治体が多く、現場の先生任せになっている。よって「背景を把握する」とここに書いておいて、市として把握するようにしてほしい。具体的には「言語背景」と他

も調べてみる。

- ③② 保育園や小学校では宗教食について困っている。家庭により様々でこの宗教だからこうと決めつけてはいけない。間違えることがないように、聞き取る背景の一つに入ってくるのではないか。
- ③③ 宗教食については文科省の様式に聞き取る項目として入っているが、対象が小学校以上となっているので、保育園でも把握しておく方がよりよい。
- ③④ 「外国人生徒の特別入学に関する選抜等を行います。」について、「外国人」と書くと、国籍が関わることになるので、「外国人生徒等」になるのか、どこまで範囲とするのかというイメージは共有しておいたほうがよい。
- ③⑤ 「外国にルーツを持つ子ども」と同じように「外国にルーツを持つ生徒」の方が読みやすいのではないか。
- ③⑥ 15ページの母語の重要性について書いているところについて、母語をなくさないことと、母語として持っているものを育てるということは学ぶことに繋がるので、今の「母語を学ぶことや、母語で教育を受けること」から、「母語を保持、育成すること」に変える。

【目標1 基本施策2/ 施策4 災害時等の非常時における支援】

- ③⑦ 災害時には区役所でも対応できるようにするとよりよい。

【目標1 基本施策3/ 施策1 適正な労働環境の確保】

- ③⑧ 「企業等の率先した外国人にも働きやすい環境づくり」という表現が私にとっては未だにわかりにくい。ここは「企業等が率先して外国人にも働きやすい環境をつくることにつながる」にしてはどうか。
- ③⑨ 「出入国在留管理局や労働局と連携し、外国人受入れに係る諸問題についての情報交換等」というところについて、「諸問題」というより、「諸課題」の方がよい。「問題」と言われると、外国人側が何か問題起こしたようなネガティブ要素が強い表現に感じる。
- ③⑩ 留学生に関する項目が二つあるが、書いてある順番が離れている。同じ留学生関係の施策になるので、これらは並びを変えて続けて記載した方がよいと思う。
- ③⑪ 「就職フェア」はこれだけが全体の流れの中で極めて具体的で、レベル感が違い、また、フェアを通じて定着を図るとは何か飛躍しすぎているように感じるため、この施策はここに無くてもいいのではないか。

【目標2 基本施策1/ 施策1 交流機会の創出と相互理解の促進】

- ③⑫ 「外国人市民の母国の文化や日本文化等を紹介する交流イベント」の「母国」についてだが、その下の「基本施策2 多文化共生に対する理解の促進」の2行目、「外国人の人権尊重の啓発や外国人市民の母国等の文化等を」のところでは、「母国等」となっている。できれば「出身地域」や、「ふるさと」といった表現に変えたら一番よいが、「国」の言葉を残すのであれば、ここも「母国等」と「等」を入れないといけないと思う。
- ③⑬ 「外国人市民の母国等の文化等」と「等」がありすぎに感じる。例えば「外国人市民の母国等の文化や習慣など」にできたら一般の人でも読みやすいのではないか。

【多文化共生施策の推進体制の整備】

- ④④ 「(2) 多様な主体との連携・協働」の二つ目の中核組織が市ではないというのがよくわからない。実働部隊とすればよいのではないか。
- ④⑤ 「誰もが気軽に立ち寄れる拠点」と外国人相談窓口の差がよくわからない。

【用語集】

- ④⑥ 特別永住者の定義の説明としては、「第二次世界大戦以前から日本に在留する朝鮮半島や台湾出身の人たち」なのだが、いきなり「1991年の法律で日本との平和条約に基づき、日本の国籍を離脱したものなど」という文言が出てくる。ここは「第二次世界大戦以前から日本に在留し、1952年まで日本国籍を有していた人たち」を入れたほうが良いと思う。
- ④⑦ 多文化共生意識調査について令和4年9月から10月にかけて行った調査とあり、今回の調査はそうなのだけれども、もうちょっと定義を広くするには「10年ごとに定期的に行われる調査」としたほうがよい。
- ④⑧ 多文化共生市民会議について、「定期的に開催される会議であること」を加えたらよい。「多文化共生のまちづくりを推進することを目的に設置された定期的に行われる会議である。」というようにしてはどうか。
- ④⑨ 「やさしい日本語」について、今の改定案の書き方であれば定義を書く必要ないと思う。「書く」だけでなく、「ゆっくり話す」ことなどもやさしい日本語と書いてあったりするので、この1行のみ書くのならこの定義はいらないし、書くのであればもう少し丁寧に書いたほうがよいのではないか。
- ⑤⑩ やさしい日本語についてだが、提案として「難しい言葉を言い換える」というところは、「難しい文法・語彙を簡易なものに置き換えるなど」にするのがよい。「言い換える」とするとスピーキング、つまり口頭言語だけになってしまうが、やさしい日本語はリーディング、つまり書記言語にも関わるので、「置き換える」という方がよい。「言葉」というと曖昧なので、「文法・語彙」にする。
- ⑤⑪ 「やさしい日本語」についてふりがなを振るということも書いてあった。ゆっくり話すなども書いてあるので、その辺も含められると思う。
- ⑤⑫ 「外国にルーツを持つ子ども」は「国籍を問わず日本国外にルーツを持つ子どものこと。」という定義を書くのであれば、この定義はいらないし、書くのであればもう少し丁寧に書いた方がよい。
- ⑤⑬ 母語＝母国語になっているが、これは間違いである。子どもの母語というのは家庭で使う言語という意味があるのだが、最初に習得した言語、自由に使える言語、家庭の言語など、よく使う言語、あるいはアイデンティティーを持っている言語という四つで、母語の定義は様々だ。母国語とは違う。アイデンティティーまで入れると難しいと思うので、適宜選んでもいいと思う。
- ⑤⑭ 「災害多言語支援センター」だが、この説明だけを読むとこれは常設的なものであるという誤解があるかもしれないので、「災害が起きた場合、多言語で支援を行うために設置される活動拠点」としてはどうか。